

教育学主専攻がめざす教育とカリキュラム改革案

手打明敏

人間総合科学研究科教授

はじめに

人間学類教育学主専攻では、現代の教育をめぐる諸問題に対する社会的ニーズとともに人間学類学生のニーズに応える主専攻教育の改革の必要性について論議を重ねてきた。昨年7月に教育学系長、主専攻主任を含む7人のメンバーからなる「教育学主専攻カリキュラム改革ワーキンググループ」(以下WGと略す)が設置された。本稿は、この間の教育学主専攻におけるカリキュラム改革についての論議を主専攻主任である手打の責任でまとめたものであることをお断りしておきたい。

I. 教育学主専攻がめざす人材の育成

わが国の教育学教育において教育学主専攻がこれまで果たしてきた社会的役割に加えて、次のような人材を育成することが現代的な課題として教育学主専攻に要請されていると思われる。

- 1) 学校や生涯学習などの教育分野でリーダーシップを発揮できる人材の育成
- 2) 国際理解教育など国際的な場で教育の専門家として活躍できる人材の育成
- 3) 狭い専門性に特化されない融合的・総合的な視野から課題解決する力をもつ公務員や民間企業の人材の育成
- 4) 教育学研究を深め、研究者を志望する人材の育成

II. 現行カリキュラムの問題点と改革の視点

教育学主専攻がめざす教育目標を達成する上で、現行の主専攻カリキュラムには次のような問題点が指摘できる。

- 1) 主専攻の専門科目は、教育学系の研究分野に対応して1) 教育の哲学・歴史、2) 教育の環境・文化、3) 教育の制度・経営、4) 教育の内容・方法、の4領域に分かれているが、カリキュラムからどのような人材を養成しようとして

いるのか明確ではない。

- 2) 学類学生が専門領域の教育内容と結び付けて卒業後の進路を方向づけることが難しい。
- 3) 現代の教育課題に対応できるカリキュラム構成になっていない。

このような問題を解決するためのカリキュラム改革案は、以下のような基本的な考え方にたつて構想される必要がある。

- 1) 学生にとって教育内容が理解しやすく、進路選択が方向づけられるカリキュラム構成にする。
- 2) 教育現場での体験を重視するインターンシップやサービス・ラーニングを導入する。
- 3) 国際的な視野で教育問題を捉えられるカリキュラム構成にする。
- 4) 大学院博士課程進学希望者には、研究分野の学問的蓄積や方法論の習得が可能な授業科目を設定する。

WGのカリキュラム改革案は、現在進行している学群・学類再編とも関連しており、教育学主専攻のみで実施できる部分とできない部分がある。以下では、中・長期的視野から取り組む改革と当面実施可能な改革に分けて整理しておきたい。

III. コース制の導入に対応したカリキュラム改革案(中・長期的改革案)

主専攻がめざす教育を具体化するためには、以下のようなコース制の導入とそれに対応したカリキュラム改革が必要である。このカリキュラム改革案はいまだ十分に精緻化されておらず、不十分なものであるが、現時点での構想案として提示しておきたい。

(1) コース制

主専攻がめざす人材育成を明確にし、学生に進路選択の方向を提示するため、例えば次のようなコースを設定することが考えられる。それにあわせて教職資格や社会教育主事資格のほか市場調査士などの新しい資格の取得が出来るようにカリキュラムの整備をおこなう。

1) 学校教育開発コース(仮称)

主に中・高等学校教員をめざす学生向けコース。小学校教員養成の可能性を探っていくことが今後の課題である。

2) 継続教育開発コース(仮称)

主に生涯学習関連の専門職のみならず民間教育産業、非営利団体(NPO、NGO等)の組織運営に携わることをめざす学生向けコース。

3) 教育計画・設計コース(仮称)

主に公務員や民間企業をめざす学生向けコース。

(2) カリキュラム改革案

上記の3コースとそれに対応したカリキュラム改革案を示したのが下記のイメージ図である。

カリキュラム改革に当たっては、以下の点に留意して具体化を図っていく。

- ①カリキュラムは共通必修、選択必修、コース専門科目の3本柱から構成する。
- ②共通必修、選択必修の科目は、主専攻担当教員がそれぞれの専門分野に応じて分担する。
- ③演習Ⅰは、講義との連続性と専門性を高めるという観点から、同名の講義科目を履修した者のみ履修可とする。科目によっては「実習」として位置づけ

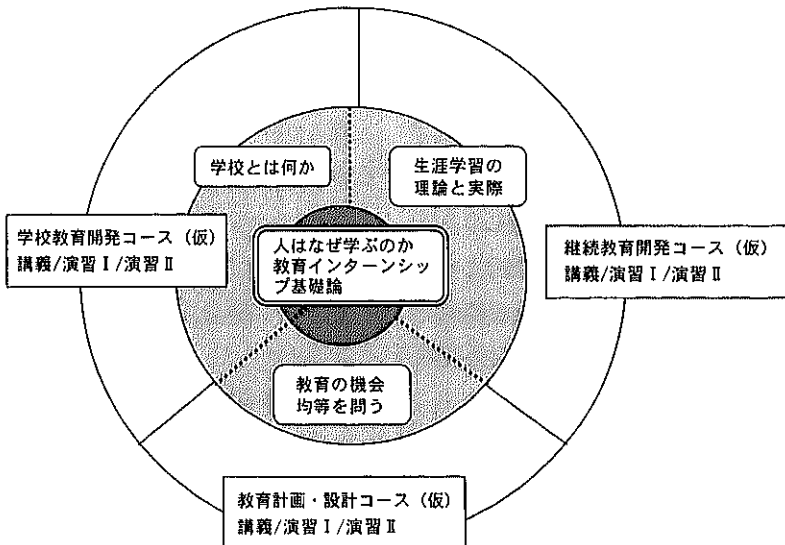
ることもできるようにする。

- ④大学院博士課程進学者を想定した演習Ⅱ（またはセミナー）を開設する（教育学研究法の基礎教育）。
- ⑤授業は、学期集中・2時間連続（2単位）科目を取り入れることを検討する。学年により、通年授業中心の学年と学期集中中心の学年という分け方も考えられる。

V. 授業の形態と方法（当面できる改革案）

上記で述べてきたことは、学群・学類再編とも関連しながら具体化を図る必要があると考えている。こうした中・長期的な改革案とともに、当面、取り組むことができ

教育学主専攻「コース」のイメージ図



る改革として、1) 講義形式のほか、フィールドワークやインターンシップ、サービス・ラーニングなど学生の体験や作業を取り入れた授業の開発、2) テーマを共有する複数の教員による多面的なアプローチからの講義・演習の開設、といったことがあげられる。

おわりに

以上、教育学主専攻内でのカリキュラム改革に関する論議を私なりに整理してみた。主専攻主任としては、一人でも多くの教育学主専攻の教員が出来るところから改革に向けて1歩踏み出すことができる機運を盛り上げていきたいと考えている。

(てうち あきとし/社会教育学・生涯学習学)